



そなえる
備

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

日に日に暖かくなっていく空気を肌で感じる事ができる、そんな季節の到来です。私も黒目川の土手をジョギングしながら、20年前は小かった桜の木が見事に咲き誇る姿を見て、自然の営みのたくましさを感じています。なんとか入学式まで桜の花がもってくればいいのですが。

さて、1月12日(日本時間13日)にカリブ海のハイチで、さらに2月27日に南米のチリで大きな地震が起きたことは皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。この地震で、多くの方がお亡くなりになり、とても胸が痛みました。心からご冥福をお祈りいたします。

ところで、この二つの地震には大きな違いがありました。チリ地震はM8.8、ハイチ地震はM7.0で、比較するとチリ地震の方が大きな規模ですが、死者数ではチリ地震は約800人(3月3日現在)、ハイチ地震は

約23万人とハイチ地震の方がはるかに多くの方が亡くなっています。なぜそのような差が生じたのでしょうか。その原因の一つに、災害に対する国の取り組み姿勢があげられます。ハイチでは耐震の基準もなく、レンガを積み上げただけの、耐震性の低い建物の倒壊により被害が大きくなったようです。逆にチリでは、世界有数の地震国で、1960年に起きたM9.5という観測史上最大規模の地震の経験を教訓に、厳格な耐震基準が定められていました。さらに学校では日常的に地震避難訓練が行われるなど、国全体の防災に対する意識が高かったようです。地震が起きた場所や時間が違うので単純に比較することはできないかもしれませんが、日ごろの対策の違いが、被害に大きな影響を及ぼすことを改めて実感しました。

市では、阪神淡路大震災でお亡くなりになった方の8割が、建物の倒壊や家具の転倒が原因であったことを教訓として、昭和56年5月31日以前に着工した建物の耐震診断に補助を行ったり、耐震診断で改修が必要となった場合、その費用の一部を補助するなど、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めているところです。

皆さんのお宅でも、建物の耐震状況や、また家具に転倒防止の金具が付いているかなどをもう一度確認していただいて、災害に強いまちづくりを進めていきましょう。

ではまた。

**朝霞市は
男女平等を進めています**
—統計データから読む男女共同参画⑬—

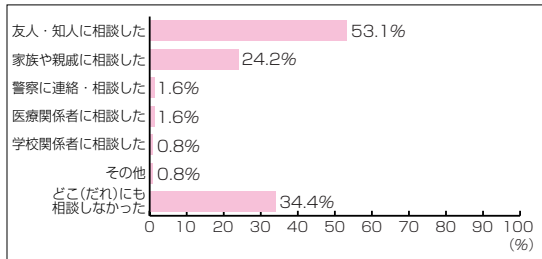
「デートDV」被害の相談先

交際相手からデートDVの被害を受けたときの相談先として「友人・知人」がもっとも多く、次いで「家族や親戚」となっています。しかし、「どこ(だれ)にも相談しなかった」とした人も34.4%おり、一人で苦しんでいる人が多いのが現状です。被害にあったら一人で抱え込まずに、まずは誰(どこ)かに相談することが大切です。

また、友人や知人から相談を受けた場合には、専門の相談窓口を紹介することが解決への第一歩となります。

相談窓口についての問い合わせは人権庶務課まで。

■10~20歳代の時の交際相手から被害を受けた時の相談先(被害経験を有する女性) *複数回答



内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)より

※このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問い合わせ/人権庶務課 内線2255 ☎048-463-2697(直通)

**市内循環バス
「わくわく号」**

**内間木線ルート変更日の
お知らせ**

市内循環バス「わくわく号」は、4月1日(木)から新しいルート・ダイヤ・バス停留所で運行しています。

広報あさか3月15日号で内間木線のルート変更を4月下旬とお知らせしましたが、国道254号バイパス開通後の**4月25日(日)**からと決まりました。

なお、内間木線のダイヤ・バス停留所は4月1日(木)から変更になっています。お間違いのないようお願いいたします。

問い合わせ/
道路交通課 内線2263
☎048-463-1514(直通)

ひとの推移

人口 12万9,454人(+40人) 世帯数 5万8,404世帯
男 6万6,231人(+24人) (-31世帯)
女 6万3,223人(+16人) 平成22年3月1日現在()内は前月比